

## 6月1日～7日は「水道週間」

# 水の大切さを考える

蛇口をひねればいつでも、どこでも、すぐに流れ出てくる水。飲み水や料理、洗濯、お風呂など、水を使わない日はなく、私たちの生活に欠かすことができません。

6月1日から7日までは、水道週間です。これを機会にもう一度、水の大切さを見直し、水についての理解を深めてみませんか。

問 業務課 ☎ 32・2516

あなたは水なしで生きていけますか

水は、私たちが生活するうえで一日も欠かすことはできません。人間の体の60～65割は水分です。特に生まれたての赤ちゃんでは、80割程度が水分だといわれています。

水は体の中でもとても重要な働きをしています。栄養分と酸素を供給し、老廃物と炭酸ガスなどを取り出して運搬しています。



▲水を大切に使い、手洗いをする児童たち

また、関節が働きやすいように潤滑剤としても役立っています。筋肉や骨が柔軟性を持つているのも、水があつてのことで、体温調節にも水は不可欠です。

体重の1割の水分が不足すると、のどの渇きを覚え、さらに不足すると脱水症状が起こります。そして、20割以上失われると生命が危険にさらされます。

一日に飲み水で約1・5リットルが必要

人間が生きていくために必要な水の量は、人によって違い、生活環境や気候などによっても変化します。一般的に成人は、一日に約1・5リットルの水を飲み水として摂取する必要があります。

このように、水は私たちが生命を維持していくうえで、必要不可欠なものであり、日常生活の中でさまざまな役割を果たしているのです。

### 水道施設の現状

県営水道では、各市町村へ飲み水を効率的かつ安定して供給するため、2つの浄水場（桜井・御所）から送水できるように施設の整備を進めてきました。

平成14年12月5日には、桜井系統の送水管（桜井幹線）から町の配水場（伊与戸）までを結ぶ送水管が完成しました。並行して町水道部が建設を進めていた県営水道受水タンク



▲町浄水場（西竹田）



▲町配水場（伊与戸）

及びその関連施設も完成し、平成15年4月1日から供用開始しました。

これまで町では、御所浄水場の水を浄水場（西竹田）で受水し町内へ配水していましたが、桜井浄水場の水を受水する配水場（伊与戸）の完成により、2つの系統（宇陀川・吉野川系統）から送水することとなり、効率的な運用が可能になりました。

また、震災などで一方の浄水場や受水地が事故に遭っても他方からの配水が可能になり、非常時の安全性が高まっています。



## 田原本町の上水道の流れ

町の水道は、桜井・御所浄水場から送られてくる水（県営水道）と地下水を利用しています。地下水は町浄水場で十分に処理され、きれいで安全な水を皆さんの家庭や学校などに送っています。



薬注設備  
消毒剤(次亜塩素酸ナトリウム)で消毒・殺菌するための施設。



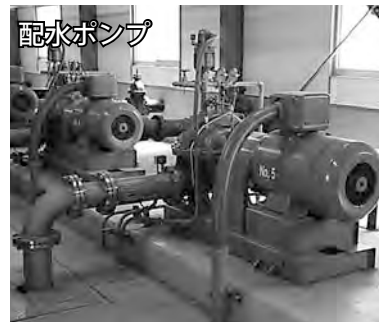
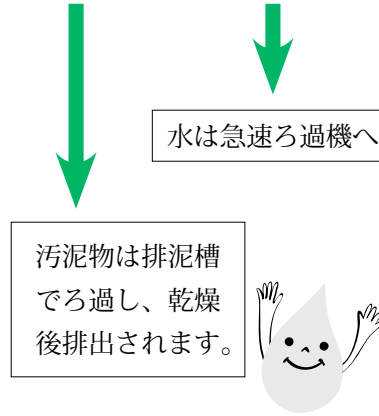
取水設備  
浄水場の周りの深井戸からポンプで地下水をくみ上げます。



町内の家庭や学校などに配水されます。



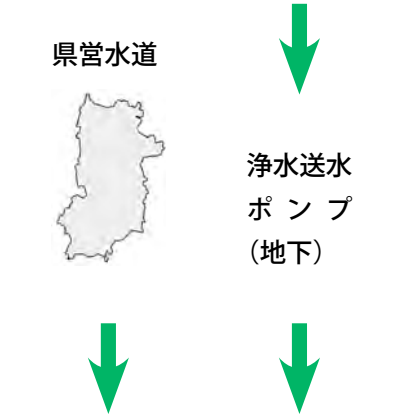
沈澱池  
地下水を受け入れ、水の量を計測し、消毒剤滅菌します。



配水ポンプ  
ポンプで町内の家庭や学校などに水を送ります。



急速ろ過機  
飲める水になるまで細かくろ過します。



配水池  
飲めるように処理された水をためておきます。

私たちの暮らしを支える水は、自然がもたらしてくれるかけがえのない資源です。  
この水道週間を機会に、皆さんも大切な水のことを考えてみましょう。

私たちが暮らしを支える水は、自然がもたらしてくれるかけがえのない資源です。  
いつでもどこでも安全でおいしい水を届けることは水道の使命です。将来もおいしい水を届けます。

町では、安全でおいしい水の安定供給のため、日夜努力を重ねています。いつでもどこでも安全でおいしい水を届けることは水道の使命です。将来もおいしい水を届けます。

蛇口から注いだ水を飲んだときの冷たさとおいしさは格別です。特にのどが渴いたときは、水は本当においしいものです。

「おいしいな だいじなお水 ごくごくり」をスローガンに水道週間が6月1日から7日まで行われます。



安全でおいしい水の安定供給に努めています